

縄文の森



企画展

上野原縄文の森展示館では、常設展示のほかに「企画展示室」を設けて、年に3回程度、企画展を開催。さまざまなテーマを設定し、県内各地の遺跡からの出土品などを展示するなど、これまでに34回実施しています。また、企画展によっては講師を招いて講演会を催すなど、来園者が常に新鮮な情報を得ることができる工夫をしています。

通常の企画展とは別に、展示館のホールを利用して、時節に関連したミニ企画展も実施。写真パネルなどで県内の文化財の紹介のほか、上野原縄文の森のイベントの様子や季節の風景なども紹介をしています。



夏休み縄文キャンプ村

復元集落の竪穴住居に実際に宿泊ができるイベントです。毎年、夏休み期間中に2回開催。縄文服作りや火おこしなどを体験し、縄文時代と同じ調理法で作る夕食などを楽しむことができます。

〈平成24年7月の参加者の声〉

親子3人で参加しました。カブトムシ合戦などを楽しむことができましたし、火おこしにも何度も挑戦してやっと火を点けることができました。実際に体験しないとわからないことが多いですね。(鳥丸さん親子)

楽しみにしていたキャンプに参加することができて、子どもが生き生きとしています。普段はどちらかというとおとなしいのですが、ここでは積極的に動いていますね。縄文時代の火おこしや縄文人の暮らしに思いをはせながらさまざまな体験ができたので、夏休みのいい思い出になりました。(東さん親子)



縄文の森展示館
(常設展示室・重要文化財)

上野原遺跡で発見され、国の重要文化財に指定されている約7500年前の出土品を中心に、県内各地の貴重な出土品を展示しています。



縄文の森展示館
(常設展示室・ジオラマ)

約9500年前の上野原ムラを再現しています。ムラ・森・海の恵まれた環境で当時の人々がどのように生活していたかを垣間見ることができます。



縄文の森展示館
(縄文シアター)

縄文時代の人々の暮らしをアニメーションで紹介しています。縄文時代の生活の知恵や自然との共存などを学習できます。

復元集落



国指定史跡となった集落跡を復元。縄文時代の住居の内部の様子を見学し、当時の生活を直接肌で感じることができます。

地層観察館

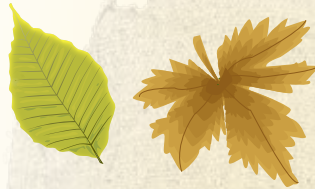


上野原遺跡の地下に潜り込み、上野原台地の生きた地層を観察できます。5層では国の重要文化財に指定された壺型土器などが出土し、7層では集落跡が発見されました。

遺跡保存館



発見された集落跡を発見当時のままの姿で保存、展示しています。住居跡のほか、調理施設の集石・連穴土坑などが残されており、約9500年前の人々の生活を実感できます。



上野原

1日縄文人体験



主に上野原縄文の森で採れる素材を使った体験活動を年に6回行っています。草木染めや縄文時代にも採れていた魚介類を使った縄文鍋などを土器を使って作り、縄文人の気分を味わうことができます。

考古学講座



上野原遺跡を中心とした南九州の縄文文化などについて解説する一般向けの講座です。各方面で活躍されている方を講師に招いて年に5回開催しています。座学だけではなく、発掘中の遺跡や周辺の史跡などの見学も行います。

火おこし



体験学習館で人気の火おこし体験に無料で参加できます。木の摩擦により発火させる仕組みで、モミギリ式、ユミギリ式、マイギリ式などの方法があります。いずれも軸になる木をいかに安定させて高速回転させるかがポイントです。火だねを移すタイミングが難しく、火がつかないまで何度もチャレンジする人も。

アクセサリー作り



縄文時代の人たちは、魔除けや身を守るおまじないとしてさまざまな材料でアクセサリーを作り、身につけていました。同じように、滑石(かつせき)という石を削ってアクセサリー作りを体験できます。料金は材料費の200円。60分～90分程度で世界に一つだけのハンドメイドの縄文風アクセサリーが完成します。



「上野原縄文の森」を支える人々

上野原縄文の森レストラン「フォレスト」店長 瀬戸口 進一さん



上野原縄文の森のレストランならではのおすすめメニューとして「縄文バーガー」を提供しています。特大のバンズの中に地元で採れた野菜や黒豚ハンバーグなどを挟んだバーガーです。

そのほかにも、上野原縄文の森を訪れた方が楽しく食事できるようにいろいろな工夫をしています。

例えば、お客さまから予約を受ける際には、食材やメニューなどの打ち合わせをして、ご要望にお応えできるように配慮しています。特に県外から来られるお客さまにはキヒナゴや黒豚、垂水のカンパチなどの食材を使った郷土料理をメインにお出ししています。また、上野原縄文の森の広大な自然の中で自由に食事していただけるように料理をお弁当箱に詰め

準備することもありますが、シートのお貸し出しもしています。地元の旬な食材を使った郷土料理を提供し、上野原縄文の森に来られた方に食事の面でも満足していただきたいと思っています。

上野原縄文の森展示館アテンダント 森田 愛さん



アテンダントとしてお客さまをご案内するようになって5年目になります。縄文時代全般のことや周辺の霧島市の観光情報などを質問されることも多く、最初のころはわからないこともたくさんありました。実際に自分も現地に行ったり、本を読んで勉強したりすることで、少しずつスムーズにご案内できるようになりました。

上野原縄文の森で私が一番オススメする場所は、展示館3階の展望所です。上野原縄文の森の全景が見られ、天気がいい日には霧島連山や桜島も見渡すことができます。常設展示の中では約9500年前を再現したジオラマが人気です。大人も子どももじっくり見ていかれる方が

多いですね。もともと歴史は苦手でしたが、上野原縄文の森で歴史に多く触れることで興味湧いてきましたので、もっと勉強していきたいと思っています。

財団法人鹿児島県地域振興公社 折田 利孝さん



毎日、上野原縄文の森のどこかしらの場所で作業を行っています。全体面積36haのうち約60%の21haが芝刈りや樹木管理を行う範囲になりますね。

上野原縄文の森には「自然樹形で森を育てる」というテーマがあるので、年を経るにつれて管理が難しくなってきました。普通の公園であれば型があり、それに沿って剪定作業などを行えばいいのですが、上野原縄文の森はなるべく自然の状態で生育されることを目指しています。ただ、場所によっては日を当てたり、来園者のために日陰を作ったりしています。芝生で遊ぶ来園者が多いので、芝生の手入れは必須です。また、管理区域にはフットライトや音響設備も

あるので、周りの竖穴住居や機器を壊すことがないように注意して作業しています。自然樹形の公園はいかに人工的に見せないようにするかが大事。開園から10年が経って、縄文時代の雰囲気漂うほどに成長した森に注目してほしいですね。

上野原縄文の森開園10周年 記念事業

開園10周年記念特別企画展

縄文人の匠の技 ~土器・土偶・耳飾りからのメッセージ~

高い芸術性と高度な製作技術を備えた土器、土偶、耳飾りなどを縄文人がどのような思いで製作したのか。縄文時代早期後葉の上野原遺跡と縄文時代中期の釈迦堂遺跡(山梨県)、茅野遺跡(群馬県)の出土資料をもとに縄文時代に生きた人びとの豊かな心とあふれる生命力に迫る企画展です。期間中には展示館1階の多目的ホールにおいて東京大学教授の設楽博己氏による講演会も予定されており、文化の秋を充実させてくれる内容になっています。



茅野遺跡出土品 耳飾り
(樺東村教育委員会蔵)

【期間】10月6日(土)~12月2日(日)
※毎週月曜日休園
(月曜日が休日)のときは翌日が休園日)
【会場】上野原縄文の森展示館
【利用料】小・中学生 150円(120円)
高・大学生 210円(160円)
一般 300円(240円)
※利用料には常設展示利用料も含まれます
※()は20人以上の団体料金
【講演会】11月3日(土)

開園10周年記念

縄文の森 秋まつり

秋の行楽シーズンに催される参加体験型のイベントです。郷土の歴史文化や上野原縄文の森への関心を深めていただくために毎年実施しています。

今年恒例のステージパフォーマンスや体験コーナーに加え、開園10周年を記念して薩摩剣士単人ショーや県外の博物館(九州歴史資料館、吉野ヶ里歴史公園、西都原考古学博物館、兵庫県立考古博物館など)による出張体験コーナーなど、例年とは違う内容が盛りだくさんです。屋台村ではボランティアガイド「どんぐり倶楽部」が提供するドンブリうどんや、くん製卵などをぜひご賞味ください。



【開催日】10月13日(土)・14日(日)
【会場】上野原縄文の森 体験広場
【入場料】無料

縄文シティサミット in きりしま

今年で15回目となる「縄文シティサミット」が霧島市で開催されます。「縄文都市連絡協議会」に参加する縄文遺跡がある全国各地の市町で年1回開催されている催しです。

今年の縄文シティサミットinきりしまのテーマは「絆と共生、自然災害を乗り越えた縄文人に学ぶ」です。

自然と共生していた縄文人から現代を生きる私たちも学ぶべきことがきっとあるはず。この秋、上野原縄文の森で縄文の魅力・深さ・歴史の意義に触れてみませんか。

【開催日】10月13日(土)・14日(日)
【会場】霧島市民会館・上野原縄文の森
【入場料】無料

